

学会ハイライト

第33回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 皮膚がん治療の革命前夜：パラダイムシフトの予感を終えて

(平成29年6月30日(金), 7月1日(土), 秋田キャッスルホテル)

野口奈津子

秋田大学大学院医学系研究科皮膚科学・形成外科学講座

はじめに

平成29年6月30日～7月1日に、秋田県秋田市の秋田キャッスルホテルにて、第33回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会「皮膚がん治療の革命前夜：パラダイムシフトの予感」(会長：眞鍋求教授)が開催されました。日本皮膚悪性腫瘍学会は東北では初の開催でした。初夏の秋田は緑が濃さを増し、素晴らしい季節で天候にも恵まれ、会期中の2日間で約600名の参加者が全国からお集まりいただき、無事盛会裡に終了できました。ご参加いただいた会員をはじめ、各講演やシンポジウムの講師や座長の先生方、日本皮膚悪性腫瘍学会の評議員および学会運営事務局の皆様、秋田大学皮膚科同門会の先生方のご尽力に厚く御礼申し上げます。

本学術大会のテーマ

最近、皮膚悪性腫瘍の治療は、悪性黒色腫における免疫チェックポイント阻害薬に代表されるように、大きなパラダイムシフトをおこしつつあります。このような潮流の中で、診断・治療・研究の最先端の情報を集約して会員の皆様に提供すべく、新規に導入された薬剤についての斬新なセミナーや、皮膚病理コロシウム、腫瘍切除・再建コロシウムなどの趣向を凝らしたプログラムとなりました。



図1 プログラム・抄録集表紙。

会長講演と招待講演

開会式に続き、大会会長で秋田大学医学部皮膚科・形成外科の眞鍋求教授が、「イノシトールリン脂質代謝の破綻を基盤とする皮膚癌発症の分子機構」と題して、これまでの自身の業績を振り返

りながら、秋田大学での研究などについて講演されました。

招待講演には、日本学術振興会 学術システム研究センターの黒木登志夫先生をお招きし、「世の中はべき乗則で動く」と題して、社会現象・自然現象、論文引用・撤回のべき乗則などをご紹介いただき、べき乗則からみえてくる社会と自然の法則性についてご講演いただきました。

特別講演と特別講演企画

特別講演：「悪性軟部腫瘍の融合遺伝子」神人正寿先生(熊本大学 皮膚科・形成再建科)、「化学放射線療法無効例への新規治療戦略」吉野公二先生(がん・感染症センター都立駒込病院 皮膚腫瘍科)、「免疫チェックポイント阻害剤の基礎」西川博嘉先生(国立がん研究センター研究所 免疫T R分野、名古屋大学 微生物・免疫学)、「悪性黒色腫の治療：複合がん免疫療法とその可能性」藤村卓先生(東北大学 皮膚科)、「悪性黒色腫の最新治療 次の一歩」並川健二郎先生(国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科)、「失敗しない皮膚縫合のコツ」確

実な創癒合と美しい瘢痕を目指して」橋本一郎先生(徳島大学 形成外科)、「シグナル伝達の異常からみた悪性黒色腫の発症と診療への応用」奥山隆平先生(信州大学 皮膚科)、「メラノーマ治療のパラダイムシフト」清原祥夫先生(静岡県立静岡がんセンター 皮膚科)、「単純ヘルペスウイルスを用いた腫瘍溶解性ウイルス療法」渡辺大輔先生(愛知医科大学 皮膚科)、「悪性黒色腫治療の新提案・腫瘍溶解性ウイルス療法」山崎直也先生(国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科)、「血管肉腫に対する薬物療法の位置づけ」藤澤康弘先生(筑波大学 皮膚科)、「血管肉腫への新規治療戦略：パゾパニブの適応とその可能性」仲野兼司先生(がん研究会有明病院 総合腫瘍科)と、多数の先生方にご講演いただきました。

特別講演企画：「メラノーマ診療の新時代が動き出した！～overview & future directions～」松下茂人先生(鹿児島医療センター 皮膚腫瘍科・皮膚科)、「免疫チェックポイント阻害薬使用におけるirAEの現状と今後」秦洋郎先生(北海道大学 皮膚科)、「悪性黒色腫に対する腫瘍浸潤リンパ球



図2 懇親会場。学会運営スタッフを中心に。

(TIL)輸注療法のfeasibility試験」舩越建先生、平井郁子先生(慶應義塾大学 皮膚科),「日本から世界に発信する皮膚悪性腫瘍トランスレーショナルリサーチ」大塚篤司先生(京都大学 皮膚科)からご講演をいただきました。

ここ数年でがん治療の世界は劇的に変化を遂げておりますが、本学会でも最先端のがん治療について多数のご講演をいただき、がん治療の夜明けがすぐそこまで来ていることを実感いたしました。

シンポジウム

シンポジウム1 【2017年 皮膚科の中の緩和医療】:「耳下腺癌の皮膚浸潤に対してモーズ軟膏療法を施行した1例」眞部恵子先生(岡山医療センター 皮膚科),「若年者の終末期医療」石川雅士先生(埼玉県立がんセンター 皮膚科),「病状告知について」吉野公二先生(がん・感染症センター都立駒込病院 皮膚腫瘍科),「医療マンガで考える『良い死(Good Death)』」山崎浩司先生(信州大学 保健

学科)からご講演いただきました。

シンポジウム2 【皮膚T細胞性リンパ腫治療の進展】:「改訂WHO分類について」濱田利久先生(岡山大学 皮膚科),「皮膚T細胞性リンパ腫:最近の治療オーバービュー」菅谷誠先生(国際医療福祉大学 皮膚科),「ベキサロテンによる皮膚T細胞性リンパ腫の治療」龍野一樹先生(浜松医科大学 皮膚科),「皮膚病変を有するATLの治療」藤井一恭先生(鹿児島大学 皮膚科)からご講演いただきました。

おわりに

本学術大会で行われた活発な討論と積極的な情報交換が、これからの皮膚悪性腫瘍に関する研究および学会と学術大会の発展に寄与し、全国からご参加いただきました会員および諸先生方にとって、明日からの診察に多少なりともお役に立てたのであれば幸いと思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。